

令和8年度 学 校 経 営 計 画

1 学校教育目標

障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力や態度を養い、社会的に自立できる人間を育成する。

＜校訓＞ 明朗 誠実 敬愛

2 学校の特徴

本校には、聴覚障害のある幼児児童生徒が在籍し、社会自立を目指して、幼稚部から高等部までの一貫した教育を行っている。高等部においては、平成22年度に福祉・サービス科を設置し、軽度の知的障害のある生徒が共に学び、生活する中で、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力や態度を養い、地域社会で生きる力を育てている。

また、聴覚障害教育センターを併設し、特別支援教育のセンター的役割を担い、聴覚障害の早期発見・早期教育、あらゆる年齢層の相談に応じ、地域に開かれた教育相談支援を目指して活動を行っている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ・聴覚障害及び知的障害それぞれの障害の特性から、日本語の習得やコミュニケーション力の向上等において様々な困難を抱えている。また、主たるコミュニケーション手段が多様化しており、自信のなさから人との関わりや物事への取組が消極的になる幼児児童生徒も多く、個々の実態に応じた指導・支援の工夫が必要である。
- ・社会的・職業的自立に向けて、学んだことを自己の将来に生かすことを見通し、「生きる力」を身に付けていくために、自己有用感を高めながら各学部段階でのキャリア教育を推進する必要がある。また、高等部では、多様な課題を抱えた生徒の自己理解を促し、能力や特性に基づく職業観を育成するなど、進路指導の充実が求められる。
- ・聴覚に障害のある幼児児童生徒には、個々の実態に応じたコミュニケーション手段を活用して、言語力とコミュニケーション力の向上を図っている。また、聴覚障害教育センターの役割として、県西部の聴覚障害者の多様なニーズに対応し、適切な指導・支援の充実を図る必要があり、聴覚障害教育に関する専門性の維持・向上に向け、知識や技能の継承の体制作りを強化していく必要がある。
- ・幼児児童生徒の在籍数の減少により、一人学級や少人数学級が多く、集団による学習活動が難しくなっている。他学部や他の聴覚障害特別支援学校、地域の学校との交流、聴覚障害と知的障害の障害種を超えた交流など、好ましい人間関係の構築や集団行動を身に付けるための場の工夫が必要である。
- ・災害や疾病に起因する突発的に発生する事態など緊急時における校内の体制づくりに努め、教職員の対応力を強化する必要がある。
- ・教員間の協働性を高め、業務の効率化を図るなど、やりがいのもてる職場環境を整備する必要がある、地域やPTA、関係機関等と連携を図っていくことが求められる。

(2) 課題

- ア 障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
(豊かなコミュニケーション力の育成、個々の自己実現のための支援)
- イ 聴覚障害教育、知的障害教育についての専門性の向上と、知識や技能の継承
- ウ 地域に開かれた学校としての教育活動の推進
- エ 健康で安全な学校づくりのための人的、物的環境の整備
- オ 組織的・計画的な学校経営と共通理解・相互協力の推進

(様式2)

4 学校教育計画（令和8年度）

項 目			目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学 習 活 動	幼稚園	目標	・ 幼児のことばと思考力の土台を育むための体験の場や活動を設定する。
			計画	・ 体験したことを言語化し、言葉の定着を図る。 ・ 幼児が考えや思いを表現できる活動を工夫する。
		小学部	目標	・ 児童同士により豊かなやりとりを目指し、手話を用いたコミュニケーションの定着を図るとともに、自ら関わり合い、会話を広げる力を育てる。
			計画	・ 学部全体の自立活動（コミュニケーション）の時間に、月毎のテーマを設定し、手話単語ややりとりのパターン練習、読み取りを行う。 ・ 経験したことを題材に、友達の前で学んだ手話を用いて発表するスピーチの機会を設ける。発表後には、題材について質問したり、答えたりする場面を設定し、自然なやりとりができるようにする。 ・ 手話を用いてやりとりする手本を日常的に見せたり、促したりするなど、コミュニケーション環境の充実を図る。
		重点I 中学部	目標	・ 他者との対話的な関わりを通して、自らの考えを深め、発信する力を育成する。
			計画	・ 伝える相手を、少人数から徐々に人数を増やし、いろいろな教科や学部集会、行事などで、「自分の考えを言葉にする」場面を設定する。回数を重ねることで、落ち着いて話せる力を身に付けられるようにする。 ・ 伝えたいことに「理由」を添えて話す言い方や、スライドなどの視覚資料を効果的に活用する方法を学習する機会を設け、自分の考えを整理して、相手に分かりやすく伝える発信力を養う。 ・ 質問の仕方を学習し、発表後のやりとりを通じて、他者の視点を取り入れて自分の考えをより深められるようにする。
		高等部	目標	・ 他者との対話的な関わりを通して、自分の考えを形成し、主体的に行動する力を育成する。
			計画	・ ペア学習やグループ学習など、学習形態を工夫し、生徒同士の関わりや発言によって、考えを深められるようにする。 ・ キャリアパスポートの学期ごとの目標を意識して、生徒が主体的に学校生活を送ることができるよう、掲示や発表の場を工夫する。
2	学校生活		目標	・ 児童生徒の実態や発達段階に応じた情報モラルの向上を図る。
			計画	・ 生徒会が中心となり昨年度見直した「高聴 携帯スマホルール」を、再確認する場を設けたり、定期的に話し合いを行ったりして、生徒全員がルールを守る意識を高め、情報モラルの向上を図る。 ・ 家庭での情報モラルを高めるために、講習会等を計画したり、情報モラルに関する家庭アンケートを実施したりして、家庭でのルールづくりに結びつける。
			目標	・ 心身の成長や、健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、健全な生活を営むために食を考える力を育成する。
			計画	・ 掲示などを活用し、健康と3大栄養素について幼児児童生徒に情報提供する。 ・ 全校幼児児童生徒がバランスのよい食事について知り考えることができるように、給食委員会の児童生徒が給食の食材について3大栄養素のいずれに含まれるかを知らせる機会を定期的に設定する。

3	進路支援	目標	・教員用進路支援のマニュアルを作成する。	
		計画	・教員用の進路支援のマニュアルを作成し、引継ぎが円滑にできるようにする。	
4	特別活動	目標	・幼児児童生徒が主体的に考え行動し、互いに関わりながらよりよい関係が築けるようにする。	
		計画	・行事の前など、定期的に児童会と生徒会が合同で話し合う場面を設定し、それぞれの立場を尊重しながら児童生徒が主体的に行動できる活動を企画する。 ・幼児児童生徒を中心に全校で取り組める行事や活動を企画し、学校生活の中でそれぞれ関わる機会を増やす。	
5	その他	教育相談 研修	目標	・聴覚障害教育の専門性の維持・継承のため、手話通訳の機会を通じて、教員一人一人の手話スキルの向上を図る。
			計画	・服装や立ち位置、手指の動かし方等手話通訳を行う際に気を付けるべきことを伝え、より分かりやすい手話通訳となるよう支援する。 ・手話通訳が必要となる行事について、学部や分掌ごとに担当を割り振り、グループごとに手話通訳を行う事前学習会を行うことで、新しい単語や手話表現の習得を図る。
		重点2 総務	目標	・保護者の主体性や協調性を引き出し、PTA活動の活性化を図る。
			計画	・保護者が主体的に取り組むPTA活動を実現するために、活動しやすい内容を工夫したり、役員間で話し合いをもつための場の設定を行ったりする。また、委員会ごとの引継ぎファイルを作成することで、次年度に円滑に引き継いでいけるシステムを構築する。
		教務 図書・情報	目標	・ICTを活用した円滑な校務運営を行うための規定や環境の整備
			計画	・校務運営システムのマニュアルから必要な部分を抜粋して簡易版マニュアルを作成する。 ・校務支援システムやクラウドサービス、AIなどを有効活用し、効率的な校務運営を検討、実践、改善する。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動 - 中学部 -
重点課題	他者との対話的な関わりを通して、自らの考えを深め、発信する生徒の育成
現 状	・生徒は、他者からの問いかけに対して応答したり、他者の意見を聞いて新たな気づきを得たりするなど、対話の基礎となる「受信」の力は備わっている。 ・一方で、自ら進んで意見を発信したり、相手の意見に質問したりするまでには至っていない。 ・自分の考えをもっている相手にもどのように伝えればよいか分からないことがある。
達成目標	・生徒が自分の考えをまとめ、発表する機会を設定する。
	年10回程度
方 策	・伝える相手を、少人数から徐々に増やし、学部集会や行事などで、「自分の考えを言葉にする」場面を設定し、回数を重ねることで、発表場面に慣れる。 ・伝えたいことに「理由」を添えて話すことや、スライドなどの視覚資料を効果的に活用する方法について学習することで、自分の考えを整理して、相手に分かりやすく伝えられるようにする。 ・相手の発表に対しての感想の述べ方や質疑応答の仕方を、教師の示範を参考に身に付けることで、多角的な視点を取り入れて自分の考えを深められるようにする。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和8年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 2 -					
重点項目	その他 - 総務・進路指導部 -				
重点課題	保護者の主体性や協調性を育むPTA活動の充実				
現 状	コロナ禍を境に、それまで保護者間で行われていた各委員会業務の引継ぎがなくなったことや、本校では役員や委員の任期が原則1年であることから、新たにPTA役員となった保護者が、各委員会の活動内容を具体的にイメージして主体的に企画・運営していくことが難しく、積極的にPTA活動に参加しようとする保護者が減少している。そこで、役員や各PTA行事の委員が見通しをもって活動を企画・運営し、次年度へ継承するシステムを構築する必要がある。 また、保護者の負担軽減のために参集の機会を極力減らしたことで、PTA役員同士の交流の機会が減り、必然的に関係性が以前より希薄になりつつある。役員同士が連携を深め、PTA活動に参加した一人一人がやりがいと楽しさを感じられるようなPTA活動の企画・運営につなげたい。				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>PTA活動を円滑に運営・継承するための引継ぎファイルの作成</td><td>役員同士の連携・協力に関する項目の満足度（アンケートによる把握）</td></tr> <tr> <td></td><td>80%以上</td></tr> </table>	PTA活動を円滑に運営・継承するための引継ぎファイルの作成	役員同士の連携・協力に関する項目の満足度（アンケートによる把握）		80%以上
PTA活動を円滑に運営・継承するための引継ぎファイルの作成	役員同士の連携・協力に関する項目の満足度（アンケートによる把握）				
	80%以上				
方 策	<table border="1"> <tr> <td> ・前年度の実施計画や案内文等を例として提示したり、PTA活動担当教員が役員と情報共有したりして、日頃から相談、連携を取りやすい体制を整え、心理的な負担軽減につなげる。 ・作成した文書や役員間で相談し合った内容について記録を残し、ファイルに綴る。 ・役員会の記録や引継ぎ書を作成し、次年度に繋げる。 </td><td> ・役員同士のつながりの一歩として、役員同士が連絡を取りやすい方法を調査・検討し、実施する。また、保護者が参加しやすい日時等を検討し、役員会を設定する。 ・各PTA行事の活動主担当をペアにし、相談しながら進められる体制をとる。 ・各PTA行事の後にアンケートを実施し、役員の連携・協力に関する満足度を調査し、役員会での話合いや次年度の活動に生かす。 </td></tr> </table>	・前年度の実施計画や案内文等を例として提示したり、PTA活動担当教員が役員と情報共有したりして、日頃から相談、連携を取りやすい体制を整え、心理的な負担軽減につなげる。 ・作成した文書や役員間で相談し合った内容について記録を残し、ファイルに綴る。 ・役員会の記録や引継ぎ書を作成し、次年度に繋げる。	・役員同士のつながりの一歩として、役員同士が連絡を取りやすい方法を調査・検討し、実施する。また、保護者が参加しやすい日時等を検討し、役員会を設定する。 ・各PTA行事の活動主担当をペアにし、相談しながら進められる体制をとる。 ・各PTA行事の後にアンケートを実施し、役員の連携・協力に関する満足度を調査し、役員会での話合いや次年度の活動に生かす。		
・前年度の実施計画や案内文等を例として提示したり、PTA活動担当教員が役員と情報共有したりして、日頃から相談、連携を取りやすい体制を整え、心理的な負担軽減につなげる。 ・作成した文書や役員間で相談し合った内容について記録を残し、ファイルに綴る。 ・役員会の記録や引継ぎ書を作成し、次年度に繋げる。	・役員同士のつながりの一歩として、役員同士が連絡を取りやすい方法を調査・検討し、実施する。また、保護者が参加しやすい日時等を検討し、役員会を設定する。 ・各PTA行事の活動主担当をペアにし、相談しながら進められる体制をとる。 ・各PTA行事の後にアンケートを実施し、役員の連携・協力に関する満足度を調査し、役員会での話合いや次年度の活動に生かす。				

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）